

厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）
分担研究報告書

分担研究課題：医師のプロフェッショナルリズムを踏まえた到達目標の在り方に関する研究

研究分担者 野村英樹 杏林大学 医学部 教授

研究協力者 後藤英司 JCHO 横浜保土ヶ谷中央病院 院長

木下牧子 医療法人愛の会光風園病院 副理事長

大生定義 立教大学社会学部 教授

朝比奈真由美 千葉大学医学部 講師

宮田靖志 国立病院機構名古屋医療センター 卒後教育研修センター長

井上千鹿子 日本医科大学医学教育センター 助教

研究要旨： 医師の能力（コンピテンシー）としてのプロフェッショナルリズム、および、キャリア継続能力にどのような具体的な能力が含まれるのか、国内外の学術団体の検討に関する情報を収集した。その結果我が国においては、医学教育学会の倫理・プロフェッショナルリズム委員会と女性医師キャリア教育検討委員会が、それぞれのサブコンピテンシー、その最終到達像、および、そこから逆算して設定された臨床研修修了時等の中間目標の検討と記述を行っていた。

ここで、倫理・プロフェッショナルリズム委員会での検討結果には、女性医師キャリア教育検討委員会によるキャリア継続のための能力も、プロフェッショナルリズムのサブコンピテンシーの中に含まれている。ただし、医師に求められる全ての能力の切り分け方によって、プロフェッショナルリズムに含まれる内容の増減があり得るので留意が必要である。

A. 研究目的

臨床研修の基本理念に謳われる「医師としての人格の涵養」を具体化させるとの観点から、「プロフェッショナルリズム」を医師のコンピテンシー（能力）の一つととらえ、その目標の設定にかかる検討の参考とするため、学会や民間、海外における医師のプロフェッショナルリズムの能力（コンピテンシー）策定に関係する取り組みについて情報収集を行う。また、女性医師の増加に伴い、医師においても男女共同参画の推進が喫緊の課題となっていることから、キャリア継続に必要な能力（コンピテンシー）策定に関係する取り組みについても情報収集を行う。

B. 研究方法

- 1) プロフェッショナルリズムないしその教育について検討している国内外の学術・職能団体（学会など）を、当該分野の研究者を通じて同定し、挙げられた同団体の活動内容について情報収集を行った。
- 2) 医師のキャリア形成・継続能力ないしその教育について検討している国内外の学術・職能団体（学会など）を、当該分野の研究者を通じて同定し、挙げられた団体の活動内容について情報収集を行った。

（倫理面への配慮）

収集した情報に個人情報などは含まれず、特段の配慮は必要ないものと判断した。

C. 研究結果

1) プロフェッショナリズムないしその教育について検討している国内外の団体として、

- I. 日本医学教育学会 倫理・プロフェッショナルリズム委員会
- II. 医療の質・安全学会 医療の質保証とプロフェッションの役割ワーキンググループ
- III. 日本内科学会 専門医部会（旧認定内科専門医会）プロフェッショナルリズム委員会
- IV. Accreditation Council for Graduate Medical Education (ACGME) Outcome Project
- V. American Board of Internal Medicine (ABIM) Project Professionalism
- VI. American Board of Medical Specialties (ABMS) Standing Committee on Ethics and Professionalism
- VII. General Medical Council（英国）

が同定された。ここで、I～IIIの活動においてはIV～VIの活動が参考にされているので、ここではI～IIIについて記述する。

I. 日本医学教育学会 倫理・プロフェッショナルリズム委員会における検討

同委員会は、学会第16期（2009年1月～）・17期（2012年6月～）・第18期（2014年6月～）とおおよそ5年にわたり、独立開催のシンポジウムを5回、医学教育共同利用拠点岐阜大学医学教育開発研究センター（MEDC）のワークショップを2回、学術集会でのシンポジウムを1回開催し、提言（1）を発表するなど、医のプロフェッショナリズムに関して積極的な活動を重ねている。2014年後半より同委員会は、これまでの検討の結果に基づき、広く学会員・非学会員に呼びかけて、「医師の能力（コンピテンシー）としてのプロフェッショナルリズムの最終到達像」を具体

的に検討している。

研究の進め方は、同年11月22日に約50名の参加者を得て「プロフェッショナルリズム教育のコンセンサスを形成しよう」と題するワークショップを開催し、その中で「医師のコンピテンシーとしてのプロフェッショナルリズム」の最終到達像を小グループ討議により作成、その際の各グループのプロダクトと、委員会で従来検討してきたプロフェッショナルリズムのあり方に関する知見を統合して、プロフェッショナルリズムの最終到達像の案を作成。この際、医師のキャリア形成能力もプロフェッショナルリズムのコンピテンシーに含まれるとの仮説に基づいて、後述する女性医師キャリア教育検討委員会によるキャリア形成能力の最終到達像も統合している。

続いて、この原案をインターネット上で公開し、11月22日のワークショップ参加者や学会関係者からのコメントを募集し、その結果を2015年2月22日のコンセンサス会議で再度検討して、委員会としての案を策定している（別添資料1を参照のこと）。

委員会案では、医師のプロフェッショナルリズムを以下の8つのサブドメインに分類している。

1. 患者や生活者との関係における医師
2. 社会的使命への貢献
3. 医師に求められる道徳性
4. 多様な価値観の受容と公正性への配慮
5. 組織やチームのリーダー／メンバーとしての役割
6. 卓越性の追求と生涯学習
7. 自己管理とキャリア形成

また、この最終到達像に向けて逆算する形で、医師育成過程の各節目における中間目標も検討している。ここで、医師育成過程の各節目とは

- a. 医学部入学時
- b. 臨床実習開始時

- c. 医学部卒業時
- d. 臨床研修修了時

である。今後、この委員会案に基づいて、学会でのブラッシュアップを行う予定である。

II. 医療の質・安全学会 医療の質とプロフェッションの役割ワーキンググループにおける検討

同ワーキンググループは、2006年度から2008年度にかけて同学会副理事長（当時）の上原鳴夫氏を主任研究者として行われた厚生労働科学研究費補助金事業(医療安全・医療技術評価総合研究事業)「医療の質・安全を確保する新しい医療システムを実現するための戦略に関する研究」において活動し、先進各国におけるプロフェッションのあり方について詳細に検討して報告している(2)。また、医師のプロフェッションによる自律団体の設立などについて提言(3)を行っており、2013年に日本学術会議医師の専門職自律の在り方に関する検討委員会がその報告書(4)で自律団体の設置を提言したことを受け、その実現に向けた活動を予定している。なお、医師の能力(コンピテンシー)としてプロフェッショナリズムについては検討を行っていない。

III. 日本内科学会 専門医部会(旧認定内科専門医会)における検討

日本内科学会認定内科専門医会は、プロフェッショナリズム委員会を設置して、医のプロフェッショナリズムについて我が国で最初に検討を行った学術団体と考えられる。同委員会では、American Board of Internal Medicine (ABIM)が American College of Physicians (ACP)および European Federation of Internal Medicine (EFIM)と合同で発表したいわゆるミレニアム医師憲章の日本語訳(5)を作成するなどの活動を行った他、その後も専門医部会ではワーキンググ

ループとしての活動を継続し、さらに日本内科学会誌の専門医部会の頁などにプロフェッショナリズムに関する論文をシリーズで掲載(6-8)するなどしている。特に、利他主義と社会契約というプロフェッショナリズムの基本的概念(7)、脳科学に基づいた人間の道徳性に関する検討(8)は、Iで紹介した医学教育学会倫理・プロフェッショナリズム委員会における、医師の能力としてのプロフェッショナリズムを検討する上での出発点となっている。

2) キャリア形成能力ないしその教育について検討している国内外の団体として、

- I. 日本医学教育学会女性医師キャリア教育検討委員会
- II. 全国医学部長病院長会議 女性医師の労働・環境問題に関する検討ワーキンググループ
- III. 日本外科学会 女性外科医支援委員会
- IV. Association of American Medical Colleges: Careers in Medicine
- V. National Health Service (英国): NHS Careers

が同定された。ここでは、I～IIIについて記述する。

I. 日本医学教育学会女性医師キャリア教育検討委員会における検討

同委員会は、学会第18期(2014年6月～)に設置された委員会である。設置の本来の目的は、女性医師の継続的社会参加支援における「医学教育が果たすべき役割」を明らかにすることであり、そのため:(女性)医師が生涯を通じて、医師としての職務を過剰なエネルギーを必要とせずに継続することが可能となるため、すべての医師が修得すべき能力を明らかにし、その修得方法を提

示することを目標に活動している。

そこで同委員会ではまず、女性医師の継続的社会参加を阻害する要因について検討し、そこから女性医師の継続的社会参加を促すための方策を検討した。その結果、システムとしての男女共同参画や社会意識の改革、労働環境の改善の他に、医学教育が関わるべきものとして

医師としての社会的使命感の醸成

医学部・卒後教育におけるキャリア教育の充実
多様なロールモデルの存在

柔軟な思考・人生設計能力の獲得

を抽出している。ここで重要なことは、これらの能力は女性医師だけでなく、男性医師にも必要であることが強調されていることである。

この検討の結果から同委員会では、医師に必要とされるキャリア継続のための能力のサブドメインとして、

- 1) プロフェッショナリズム
- 2) キャリアデザイン立案能力
- 3) 職業上の多様な価値観を受容する能力
- 4) 支援に対する姿勢
- 5) 社会的性差の認識とその対応能力

を設定している（詳細は別添資料2を参照）。

ここに紹介したキャリア継続のための能力は、2014年の医学教育学会学術集会のパネルディスカッションで案が発表されたが、その内容はプロフェッショナリズムとの関連が非常に深いものであったため、前述のように同学会の倫理・プロフェッショナリズム委員会におけるプロフェッショナリズムの能力（コンピテンシー）の検討に際して、ここで挙げた項目を統合して検討されている。

II. 全国医学部長病院長会議における検討

全国医学部長病院長会議の女性医師の労働・環境問題に関する検討ワーキンググループは2011

年11月、女性医師の就労環境に関する実態調査と題する報告書を公表している(10)。これは、会員である80大学を対象とした調査である。

その中では、女性医師の割合や保育設備の有無や利用可能時間などの調査結果に加え、医学部教育におけるキャリアプランニング教育の充実の必要性の認識についても調査している。「賛成」が81%（65/80大学）と多く、「反対」は1%で1病院（1/80大学）のみであったとのことであるが、実際にどのような教育を行うべきか、各大学が悩んでいる状況がうかがわれている。

翌2012年10月には、同委員会が「医師のキャリア形成に関連する医学部教育の実態調査」と題する報告書を公表した。これは、医学部におけるキャリア教育への賛否、実施状況などを調査した結果であるが、医学部におけるキャリア教育実施への賛成の理由として、「キャリア教育は医師のプロフェッショナリズム教育と同等であり当然である」や、「一貫した卒前・卒後・生涯教育上必要である」などが紹介されている。

さらに、調査結果に基づく記述ではないものの、報告書冒頭の津田喬子委員長による「発刊にあたって」では、キャリア継続に必要な能力とプロフェッショナリズムの関係について、以下のように述べている。

（転載はじめ）

医師には、知識や技能を修め、それを生涯にわたって中断することなく発展させ、社会に還元することが求められています。それは医師のプロフェッショナリズムと言えます。「キャリア教育」とは、今日の医学・医療のグローバル化の中で、医学生・若い研修医に対して、医師のプロフェッショナリズムをいかに継続していくかの確固たる動機づけと考えます。具体的には、1. 医師として生涯就労を継続する、2. 医学知識と技能の研鑽に励む、3. 自己啓発力を形成する、4. 社

会へ還元する意識を持つ、5. 男女平等な社会の実現に努力する、6. ワークライフバランスを正しく理解する、などが考えられます。

(転載おわり)

III. 日本外科学会女性外科医支援委員会における検討

日本外科学会女性外科医支援委員会は 2012 年 5 月、「日本医学会分科会における女性医師支援の現況に関する調査報告書」を公表している (9)。

これは、日本医学会分科会として承認されている 110 の学会に調査票を送り、105 の学会から回答を得た結果をまとめたもので、2008 年にも一度同様の調査を行い、2011 年の調査は二回目である。専門医の認定を行っている学会は 70 あったとのことであるが、専門医の中で女性が占める割合に加え、専門医の更新の際に妊娠・出産、育児休暇、介護などを留保条件として認めているかも調査している。そのような留保条件を認める学会は前回調査と比較して増加しているとのことであり、少しずつではあるが、専門医の維持に女性のライフイベントが不利にならないような体制が作られつつあるようである。

その他、学会ごとに女性医師のキャリア継続支援のためにどのような活動を行っているかを自由記載で回答を求めている。中には、キャリア継続のための能力が取り上げられた可能性のある学術集会での企画を回答した学会が多数存在したが、具体的な能力 (コンピテンシー) についての検討があったかどうかは不明である。

D. 考察

本分担研究の主題は、医師臨床研修におけるプロフェッショナルリズムの学習目標の検討にある。しかしながら、我が国で発展してきた医学教育の理論では、医師の育成過程における各段階の目標

はお互いに独立して存在するものではなく、医師としてのあるべき姿を最終到達像として、いわゆる lay person (一般人) がその最終到達像に至るまでの中間過程に、節目ごとの (例えば臨床研修修了時の) 目標があると考えて設定することが求められている。

日本医学教育学会は、卒前医学教育から卒後医学教育、生涯学習までの全課程を視野に医学教育全般について研究・実践する唯一の学術的団体であるため、その各種委員会が上記の理論に基づき、プロフェッショナルリズムやキャリア継続の能力 (コンピテンシー) の最終到達像や中間目標を検討している。他の学術的な団体もプロフェッショナルリズムやキャリア開発についての検討を行っていたものの、その最終到達像や各段階における中間目標の設定を明示的に行っている団体は存在しなかった。

さて、医学教育学会倫理・プロフェッショナルリズム委員会における検討で一点問題となったのは、プロフェッショナルリズムの能力 (コンピテンシー) とキャリア継続のための能力 (コンピテンシー) を統合して考えるべきか、切り分けて考えるべきかという点である。キャリアを継続することは、医師としての自分への社会からの信託に応える意志を持つことであるという意味で、確かにプロフェッショナルリズムと重なる部分があることに疑いはないものの、では具体的に生物学的性差や社会的性差を認識したり、その克服を目指すことまでをプロフェッショナルリズムの能力に含めるべきかどうかは賛否両論が存在した。

しかし、広く社会や職場における差別を克服し協働する能力と捉えることにより、プロフェッショナルリズムに含めて考えるべきとのコンセンサスが得られたため、同委員会案では最終的に性差の認識や克服もプロフェッショナルリズムの能力に含める結果となっている。

E. 結論

日本医学教育学会倫理・プロフェッショナルリズム委員会が呼びかけた医師の能力（コンピテンシー）の一つとしてのプロフェッショナルリズムの検討において、以下の8つのドメインが挙げられた。

1. 患者や生活者との関係における医師
2. 社会的使命への貢献
3. 医師に求められる道徳性
4. 多様な価値観の受容と公正性への配慮
5. 組織やチームのリーダー／メンバーとしての役割
6. 卓越性の追求と生涯学習
7. 自己管理とキャリア形成

各ドメインについて、臨床研修修了時の到達目標が呈示されている。この中には、キャリア継続に必要な能力についても統合されている。今後、同学会内でブラッシュアップされる予定であり、平成32年度の目標の見直しの議論に際し有用な資料である。

参考文献

1. 第16期日本医学教育学会倫理・プロフェッショナルリズム委員会. 提言 医師養成課程におけるプロフェッショナルリズム教育の導入と具体化について. 医学教育 2011; 42(2): 123-126
2. 医療の質・安全を確保する新しい医療システムを実現するための戦略に関する研究：平成20年度総括・分担研究報告書：平成18年度厚生労働科学研究費補助金事業(医療安全・医療技術評価総合研究事業)
3. 野村英樹. 医療の質の保証に資する「プロフェッションの自律」の制度化に関する研究. 医療の質・安全学会誌 2008; 3(1): 29-32
4. 日本学術会議 医師の専門職自律の在り方に関する検討委員会. 全員加盟制医師組織によ

る専門職自律の確立—国民に信頼される医療の実現のために. 2013年8月30日

5. 米欧合同医師憲章と医のプロフェッショナルリズム - 日本版内科専門医憲章策定をめざすプロジェクトの成果 -. 内科専門医会誌 2006; 18(1): 45-57
6. 野村英樹. プロフェッションによる教育と自律のあり方. 日本内科学会雑誌 2010; 99(5): 1116-1121
7. 野村英樹. プロフェッショナルリズムの本質—利他主義と社会契約を理解する. 日本内科学会雑誌 2011; 100(4): 1110-1120
8. 野村英樹. プロフェッショナルリズムの基盤としてのヒトの道徳本能. 日本内科学会雑誌 2012; 101(11): 3277-3286
9. 日本外科学会女性外科医支援委員会. 日本医学会分科会における女性医師支援の現況に関する調査報告書. 2012年5月
10. 全国医学部長病院長会議 女性医師の労働・環境問題に関する検討ワーキンググループ. 女性医師の就労環境に関する実態調査. 2011年11月

F. 研究発表

1. 論文発表

日本医学教育学会第18期倫理・プロフェッショナルリズム委員会. 「プロフェッショナルリズム教育のコンセンサスを形成しよう」ワークショップ報告書. 2014年12月10日

2. 学会発表

なし